

郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 西汗

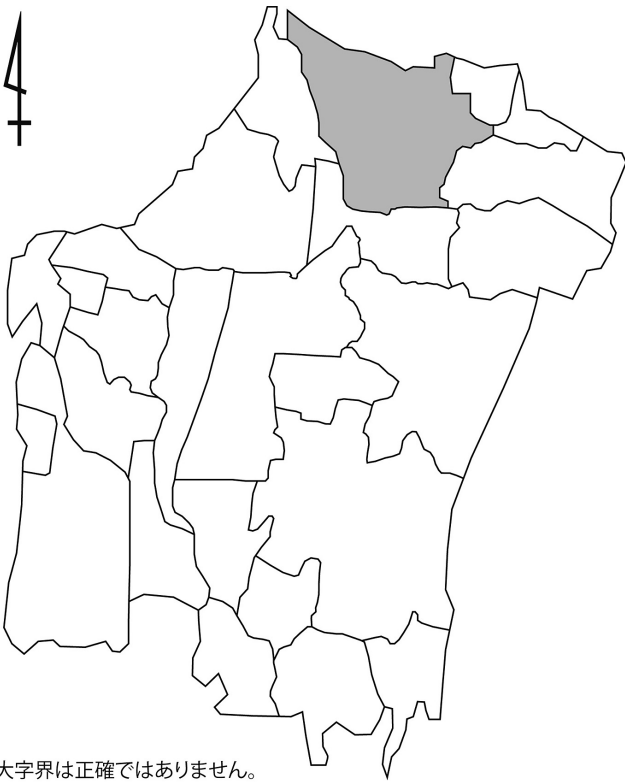
西汗は、上三川町の北部に位置し、宇都宮市とその境を接しています。地区のほぼ中央を南北に流れる江川を挟んで、東部の鬼怒川低湿地帯には水田が広がり、西部の台地上には本郷台団地などの住宅地に多くの人々が暮らしています。集落の中には、創建時期は不明ですが、高麗神社が鎮

座しています。「汗」と書いて「ふざかし」と読む地名は、全国でも屈指の難読漢字です。東汗の満願寺にある秘仏・薬師如来に由来するほか、鬼怒川渡船場の札貸しが語源などといわれており、その由来には諸説あり、いまでも定説はありません。

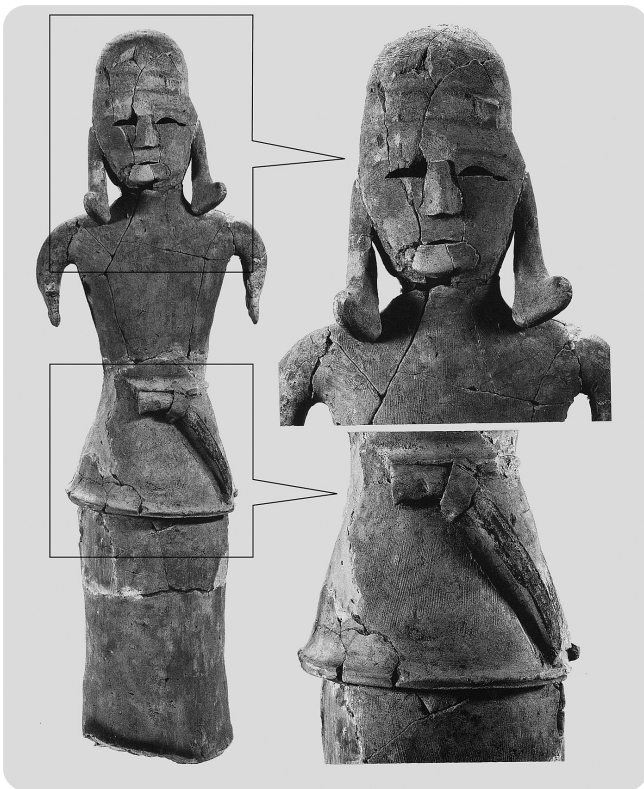
西汗の西部台地上は、先に述べたとおり住宅地となっています。その宅地造成に伴い、昭和48年に行われた西赤堀遺跡の発掘調査では、古墳時代から平安時代にかけての多くの竪穴住居跡が見つかっています。現代の私達と同様に、古代の人々にとってもこの地は住みやすかったのでしょうか。

さて、西汗には古墳もいくつか確認されています。そのうちのひとつ、西赤堀狐塚古墳は全長約40メートルの前方後円墳です。発掘調査の結果、男女や馬・盾などを模した埴輪が多数見つかりました。6世紀後半、この地を治めていたであろう人物の墳墓であったと思われる。

東岸、宇都宮市西刑部町との境界付近にありました。一辺が約200メートルもある区画からは、有力家臣が住んでいた館であったと推察されます。江戸時代、宇都宮氏改易後は宇都宮藩領となります。そして現在に至るまで、農村の風景を残しながらも、市街化区域として多くの人々の生活が営まれる地となっています。



※大字界は正確ではありません。



西赤堀狐塚古墳出土の人物埴輪(全長92cm)

※上の写真の埴輪をはじめ、西赤堀狐塚古墳から出土した埴輪数点が、下記特別展にて展示されています。

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 第28回秋季特別展
『しもつけの“埴輪群像”-そのすがたをさぐる-』
平成26年11月24日まで ☎0285(44)5049